

とやま健康企業宣言Step2認定 事業所アンケート

健康企業宣言富山推進協議会

令和5年9月20日

1.調査の目的

「健康経営®」及び「とやま健康企業宣言」に取り組み、とやま健康企業宣言Step2認定を取得した企業に対し、同取り組みの効果等について検証し、その結果を未認定事業所等に対しフィードバックを行う。

2.対象

とやま健康企業宣言Step2認定事業所51社(協会けんぽ加入42社、健康保険組合加入9社)

3. アンケート方法

郵送による配付、回収

4. アンケート実施期間

令和5年6月22日から令和5年7月31日まで

5. 回答状況

回答数 34事業所(回答率 66.7%)

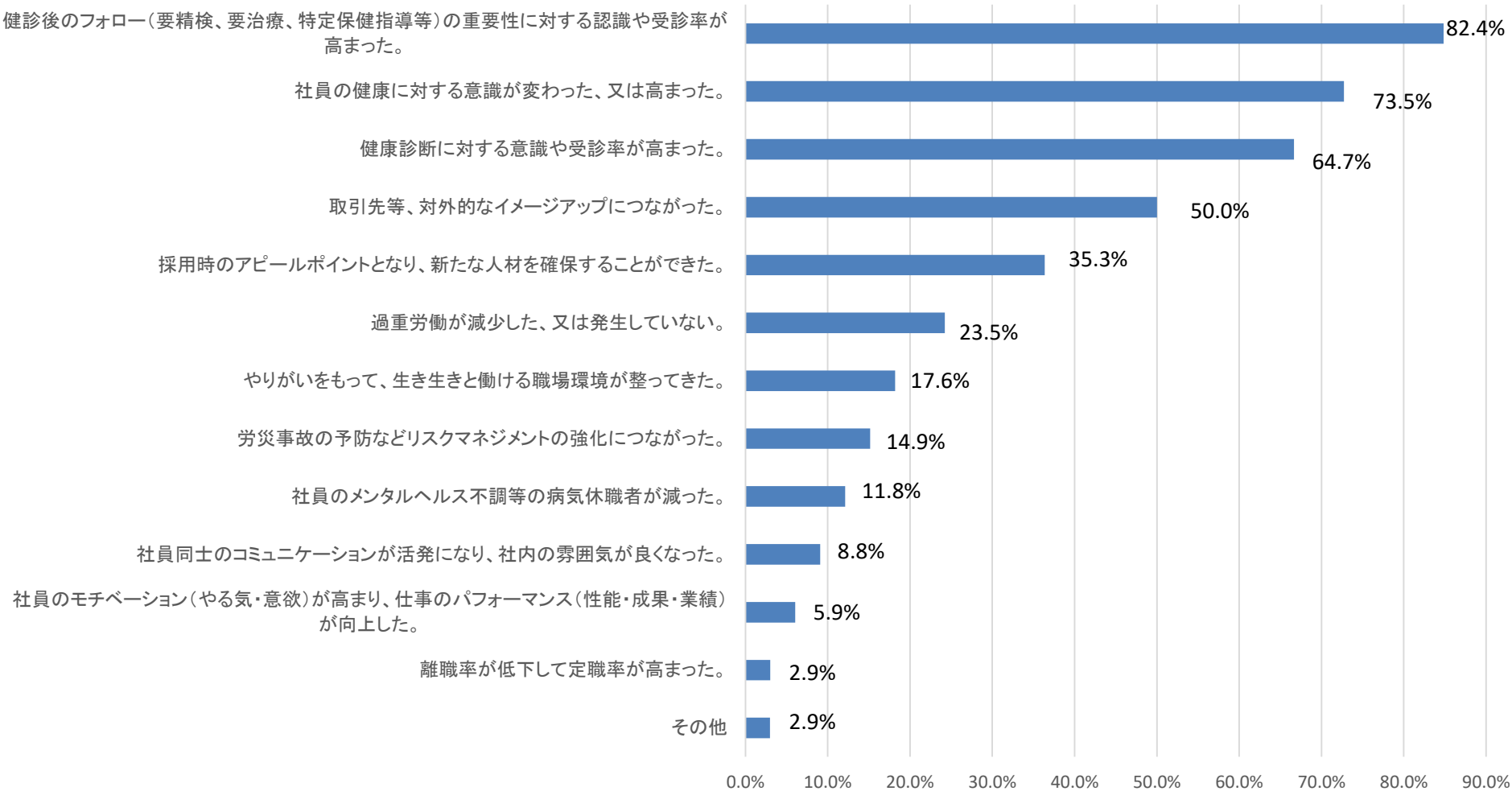
6. アンケート項目

- ・「健康経営®」及び「とやま健康企業宣言」事業に取り組み、その効果を感じているものがあれば教えてください。
- ・「健康経営®」及び「とやま健康企業宣言」事業に取り組むにあたり具体的な取り組み内容や進め方など参考にされている媒体があれば教えてください。
- ・「とやま健康企業宣言」で取り組みたかったが取り組めなかった項目や、取り組みが難しかった項目がありましたら理由も併せてご記入ください。
- ・健康経営及び「とやま健康企業宣言」事業に取り組むうえで必要だと思う支援内容など、ご要望・ご意見がありましたらご記入ください。

7. その他

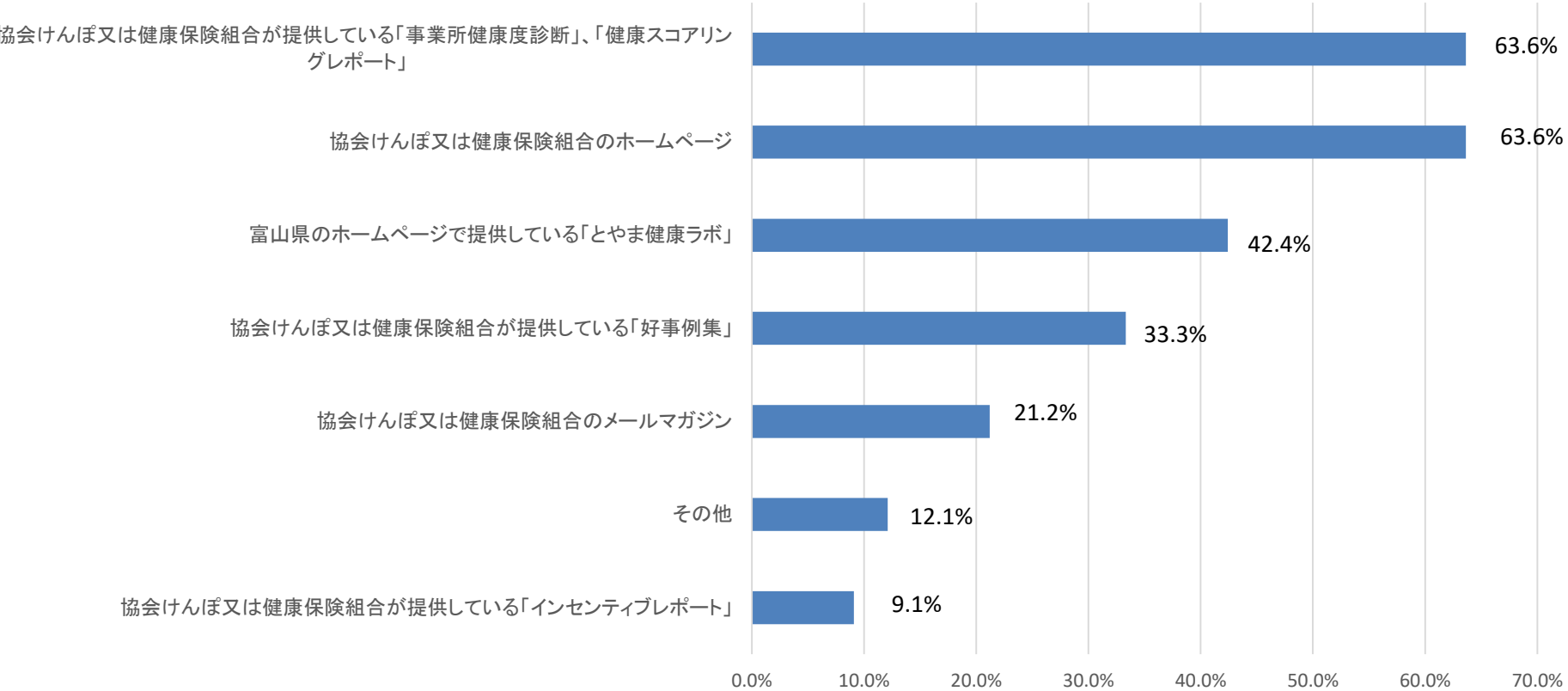
- ・比率は百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入し算出。
- ・問1及び問2は複数回答可のため、その比率の合計は100%を上回ります。

問1.「健康経営®」及び「とやま健康企業宣言」事業に取り組みその効果を感じていること



その他
・管理面が明確になった。

問2.「健康経営®」及び「とやま健康企業宣言」事業に取り組むにあたり具体的な取り組み内容や進め方などの参考にされている媒体について



その他

- ・YouTubeから生活習慣病対策やメンタルヘルス関係の動画を視聴する。
- ・関連会社の取り組み事例
- ・協会けんぽ職員のアドバイス
- ・職場の環境改善

問3.「とやま健康企業宣言」で取り組みたかったが取り組めなかった項目や、取り組みが難しかった項目(自由記載)

取組分野: 健診・重症化予防

- ・コロナ感染症流行により、健診(特定健診含む)や再検査等、病院に行くとコロナ感染するリスクが高いと思う社員や家族が多かった。
- ・オプション項目の事業所負担(ドック等)費用面及び公平性。
- ・健診で要精検、要治療者に対する再受診について周知を継続しているが、再受診率の向上につながっているか把握できていない。その理由として従業員が多いこと、健診結果が紙で届きその中から対象者を抽出する作業に手間がかかること。
- ・会社として従業員の健康について管理、フォローを行うことに加え、多くの従業員が自身の健康についてもっと考え、もっと意識しもっと興味を持って頂ければ企業としての健康経営もさらに良い方向に向かうと考えます。企業としてその為に何か取り組みができないかを今後検討したい。
- ・有所見者の再検査の取り組み。確かに再検査には行ってもらえるが、医師より経過観察指示や食生活改善指示のみだとなかなか意識向上につながらず翌年また要受診指示となる。いかに意識を定着させるかが難しい。
- ・「要治療」対象の方には個人情報関係から、直接受診を進めることが難しい(誰が対象かわからないため)。
- ・被扶養者の方への健康診断受診率が中々伸びない。被扶養者の方向けに、社長名で文書を出しているが、健診を受けていただけないのが課題と考えています。
- ・被扶養者の受診者数を増やす。
- ・特定保健指導者数を100%に近づける。
- ・被扶養者の健診の受診率をもっと伸ばしたかった。
- ・家族(被扶養者)の特定健診の受診勧奨において、受診率が低く、社内掲示、回覧で情報共有を行っていたが、直接確認することが難しかった。
- ・従業員家族(扶養者)への健康診断(特定健診)受診の推進取組事業者からの案内や費用補助等実施したが、家族の受診結果までは踏み込めないのが効果が把握できていない。
- ・配偶者の健康診断受診率については、社員を通して受診してもらおうよう案内しているが、受診率は向上しないため難しい。
- ・被扶養者の受診率向上が難しかった。定期的に被扶養者の方に案内はするもののいろいろな事情から協会けんぽの受診率に結びつかない。
- ・難しかった項目は被扶養者の受診率の向上でした。

取組分野: 健康管理・安全衛生及び感染症対策

- ・時間単位の年次有給休暇

取組分野:メンタルヘルス対策

- ・過重労働防止に取り組むうえで、業務がひとりに集中しないように調整を行い、部署内又は他部署からの応援するような体制を整えるのが難しい。現場の仕事なので担当者でなければ解らないことがあるため。
- ・「心の健康づくり計画」は面白味、楽しさが無いので、健康経営の中で取り組もうと思っていたが、「楽しくて継続できそうな項目」がなかなか見つからない。
- ・メンタルヘルスについて。

取組分野:その他(全般)

- ・喫煙率が高いことが課題であり、喫煙率の低下を目標として、禁煙外来自己負担額の会社補助(全額、禁煙成功時)や喫煙に関する情報共有等取り組んでいるが、なかなか禁煙に取り組もうとする社員が現れない。喫煙に限らず健康課題を自分事としてとらえてもらうためのアプローチ方法を模索している。
- ・「健康づくり目標」に掲げている”全社員のうち喫煙者20%以下にする”に対して少しずつではあるが喫煙者が下がってきてはいます。しかしなかなか喫煙者を禁煙者にもっていくことが難しく、もっとスムーズにいく方法、薬があれば教えていただきたいです(現在、毎年アンケートを取り禁煙モニターとして禁煙外来に数名受診しています。費用は会社負担しています。)
- ・被扶養者の特定健診受診率アップについての方法、手段。
- ・禁煙(やめた人はすでにやめている。)チャレンジしようと思う人がなかなかいない。
- ・健康経営に関する取り組みにて、意識がそれほど高くない方へ生活習慣改善のモチベーションを向上させる、ということが難しかったです。
- ・企業宣言に取り組んだ当初には喫煙者が数名減ったが、ここ2~3年はまったく減っていない。他人に迷惑をかけない環境になった事で喫煙者自身の健康意識が低下している。
- ・健康に関する講習会(セミナー)実施2022年度は全員受講させるために内容を変えて3回実施したが、義務的に受講させられた感が強い人が多かった。健康への関心の度合いや年齢層がまちまちなので、全員向けの実施は難しい。”
- ・コロナもあり社員が集まってヨガやジョギングなど健康意識が高まることを制限されてきたため、今後は積極的に取り組んでいきたいと思えます。
- ・コロナ禍で全員で集まるセミナーなどが開催できなかった。

問4.「とやま健康企業宣言」で取り組みたかったが取り組めなかった項目や、取り組みが難しかった項目(自由記載)

- ・メンタルヘルス不調者が発生した場合、社内担当者の該当者との接し方(言ってはいけない言葉、態度などのセミナー)社外機関の利用等(職場復帰への流れなど教えてもらえるのか?)
- ・健康にかかわる事業で社内への浸透や、健康課題に対して自分事としてとらえてもらうためのアプローチの仕方があれば教えてほしい。
- ・他企業の取り組み事例等についての情報共有や、引き続き健康ラボ棟等で興味を引く楽しんで健康づくりができるイベントを実施してほしい。
- ・取り組みに対する費用の一部助成支援などがあれば助かります。
- ・「とやま健康企業宣言」事業に取り組むことで、弊社が足りていないところや出来ていないところが見える化でき、現状を知るきっかけとなりました。また、Stepでのチェックシートは具体的に且つ細かく記載してありましたので、進むべき、やるべき方向性が分かり、とてもありがたかったです。"
- ・健康アプリを導入したいので、たまにですが、健康企業宣言等に利用できますという触れ込みきたDMの資料取り寄せたりします。年間使用料が結構高い割に無料アプリと大差なかったりする上に営業職が強く、いろいろ探するのが面倒になりました。営利絡むと難しいとは思いますが、協会けんぽおすすめのお偶付(公認・推奨等)があると会社で導入しやすいです。"
- ・インセンティブがもっとあれば(社保率割引等)急拡大すると思われそうです。(今年度労働保険料率がかなり上昇し、経営に影響があると予想)
- ・経産省が推進している「健康経営優良法人」認定を得るためのサポート。
- ・協会けんぽより健康経営や健康企業宣言事業について、学生(小学生～大学生)をメインターゲットとして広報活動を行い言葉や内容を浸透させてもらうことにより、企業が活用しやすくなる。
- ・経産省が推進している「健康経営優良法人」のように難易度を上げてもらってもかまいません。
- ・企業へ訪問しての研修会等を増やしてほしい。
- ・健康診断時における医療機関側の特定保健指導に対する受診への意識が薄く? 受診率を上げることが難しい。健康診断時に特定保健指導の対象者であることを社員本人へ即日指示していただきたい(富山県外での受診時)。
- ・企業に健康に関するポスターの配布等してほしい、社員にPRしたいと思います。ウォーキングイベントや体を動かすメリットなど病気(ネガティブ)じゃなく前向きになるようなもの。
- ・禁煙に関する支援。